

4-(1)-⑮ 社会貢献・連携活動の状況

■ 東北復興支援機構(TRSO)

東北復興支援機構(TRSO)は、東日本大震災後、2011年5月に設立した復興プロジェクトセンターです。

本学で教鞭をとるクリエイターの造形ワークショップ、南相馬の子どもたちを山形に招待するアート林間学校、自主避難母子の交流ピクニックや他大学と連携した学生ボランティアバス運行の支援など、被災したコミュニティへの教育リソースの提供を軸に、複数の支援プロジェクトをおこなってきました。

プロジェクトの大半は、当機構の取り組みに賛同した外部企業や団体からの寄付金・助成金により実施しており、2014年度には、スイスにある財団「日本の子供たち」により寄付を受け、姉妹校 京都造形芸術大学と共同で、東北の芸術文化により東北の子どもたちを支援する「こども芸術の村」プロジェクトを立ち上げました。

■ 美術館大学センター

学内の研究機関と共同で〈東北〉の風土に根ざした展覧会や、他地域とのネットワーク構築のためのシンポジウムを定期的に企画・開催しています。また、〈芸術によるあらたな地域文化の掘り起こしとその継承〉をテーマに、空洞化しつつある中心市街地や中山間地域でのアーティスト・イン・レジデンス事業を、地域と有機的に連動しながら推進しています。

平成19年度より実施している「ひじおりの灯」プロジェクトでは、温泉文化と創作活動の融合による“現代版・湯治”の創出を目指しています。本学の大学院生や卒業生有志たちが温泉街で逗留制作をおこなった灯籠の点灯が肘折温泉街の夏を飾っています。

また、平成28年度には、2回目となる「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」を開催し、山形県郷土館「文翔館」及び本学キャンパスなどを会場にアート、音楽、詩、市民連携プロジェクトなどのほか、ジャンルの垣根を超えたアートプログラムを約1か月間にわたって開催しました。

■ 社会人講座(生涯学習プログラム)

本学の教授陣と卒業生が、その専門とする技術や理論に、深みのある文化や情報のエッセンスを加えた社会人向けの講座を開講しています。

作品制作(絵画、版画、陶芸、漆芸 他)や和太鼓などの夜間・週末講座や臨床美術講座、社会人の学びの目的やライフスタイルに合わせた約35講座を展開しています。

■ 全国高等学校デザイン選手権大会(デザセン)

高校生の視点で、社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、三人1組のチームで解決方法を分かりやすく提案する大会です。企画書での一次審査、提案パネルでの二次審査を行い、入賞10チーム、入選30チームを選出。入賞10チームが本学での決勝大会に出場し、優勝[文部科学大臣賞]以下、準優勝、市民賞などを決定します。第23回を迎えた平成28年度は、全国の87高校(1,015チーム)から応募がありました。一次審査・二次審査を通過した10チームが決勝大会に挑

みます。デザセンへの取り組みを通じて、これからの社会で必要とされる“問題発見力”や“分析力”“企画構想力”そして“問題解決力”を身に付けた高校生が社会に巣立つことで、「デザイン思考」が普及しつつあります。

■ 創造性開発研究センター

幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の創造性教育を更に進め、小中高生の「自ら学び、考え、行動する力」を育てる芸術思考とデザイン思考に基づく、教育方法の確立を目的に研究を進めています。

当研究センターでは、平成 25 年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」をテーマに平成 29 年度までの 5 年間のプロジェクトに着手しています。